

## 徹底解説 本試験問題シリーズの刊行にあたって

情報処理技術者試験は、共通キャリア・スキルフレームワークをモデルとして、各試験に対応するレベルを満たしているかどうかを判定するもので、高度情報処理技術者試験（以下、高度試験）はこの中の最高レベルの試験として、午前Ⅰ、午前Ⅱ、午後Ⅰ、午後Ⅱの４試験に分けて実施されます。

午前Ⅰ試験は、高度試験と共通の問題が出題され、幅広い知識が要求されます。続く午前Ⅱ試験では試験区分ごとに異なる専門分野を中心に出题されます。これらの試験では、全体に基礎的な知識が多く出題されており、試験対策で身に付けた知識の量が成績として確実に表れるといえます。

一方、午後Ⅰ、Ⅱ試験は、もっている知識を事例に適用し、決められた時間内で解答を記述する能力が要求されます。そのために、問題文の事例や説明を読んで、解答に必要な知識を組み合わせ、応用していく力を身に付ける必要があります。午前試験で学習する知識を断片的なものではなく、事例と結び付け、体系的な知識・技術として理解することが重要になります。

情報処理技術者試験の午前試験では、半数以上が過去に出題された問題や、一部の内容が修正された問題です。また、午後の試験でも、問題内容は変わっても過去に出題された設問内容の主旨を引き継いだ問題も多いため、過去の試験問題を解くことは重要で、そのための演習用問題集として、本書は最適です。

この本試験問題シリーズでは、受験をする際に、最近の出題傾向を理解するために重要な３期分の本試験問題とその詳細な解答解説を収録しました。問題を解いた後は、必ず解説を読んで出題内容と関連事項を理解してください。特に午後問題は正解を確認するだけでなく、問題を実際の事例としてとらえ、解答を導く過程を理解することが非常に大切です。

巻末にある午前問題出題分析から、出題数の多い分野や難易度が分かるようになっており、繰り返し問題を解くときに活用していただけます。平成 26 年度試験からセキュリティ分野の出題が強化され、午前Ⅰ、午前Ⅱ試験の両方で出題数が増加しました（セキュリティ分野が含まれていなかった午前Ⅱ試験にも出題範囲として加わりました）。このような出題傾向の変化に対応するため、巻末の出題分析を有効に利用していただき、セキュリティ関連の問題については特に重点的に学習してください。

合格を目指す皆さまが、この本試験問題シリーズを十分に活用し、栄冠を勝ち取られますよう、心よりお祈り申し上げます。

2017年2月  
アイテック IT 人材教育研究部

---

# 目 次

---

徹底解説 本試験問題シリーズの刊行にあたって

## 試験制度解説編

1. システムアーキテクト試験の概要	8
2. 受験ガイド	18
3. 平成 29 年度秋期の試験に向けて	20

## 平成 26 年度秋期 問題と解答・解説編

午前Ⅰ問題	H26- 1
午前Ⅱ問題	H26- 17
午後Ⅰ問題	H26- 35
午後Ⅱ問題	H26- 59
午前Ⅰ問題 解答・解説	H26- 65
午前Ⅱ問題 解答・解説	H26- 81
午後Ⅰ問題 解答・解説	H26- 94
午後Ⅰ問題 試験センター発表の解答例	H26-110
午後Ⅱ問題 解答・解説	H26-116
午後Ⅱ問題 試験センター発表の解答例	H26-134

## 平成 27 年度秋期 問題と解答・解説編

午前Ⅰ問題	H27- 1
午前Ⅱ問題	H27- 17
午後Ⅰ問題	H27- 31
午後Ⅱ問題	H27- 57
午前Ⅰ問題 解答・解説	H27- 63
午前Ⅱ問題 解答・解説	H27- 80
午後Ⅰ問題 解答・解説	H27- 92
午後Ⅰ問題 試験センター発表の解答例	H27-108
午後Ⅱ問題 解答・解説	H27-113
午後Ⅱ問題 試験センター発表の解答例	H27-129

## 平成 28 年度秋期 問題と解答・解説編

午前Ⅰ問題	H28- 1
午前Ⅱ問題	H28- 19
午後Ⅰ問題	H28- 33
午後Ⅱ問題	H28- 59
午前Ⅰ問題 解答・解説	H28- 65
午前Ⅱ問題 解答・解説	H28- 85
午後Ⅰ問題 解答・解説	H28- 99
午後Ⅰ問題 試験センター発表の解答例	H28-117
午後Ⅱ問題 解答・解説	H28-122
午後Ⅱ問題 試験センター発表の解答例	H28-138

### <出題分析>

システムアーキテクト試験	出- 1
(1) 午前問題出題分析	出- 2
(2) 午前の出題範囲	出-14
(3) 午後Ⅰ問題 予想配点表	出-24

#### 商標表示

各社の登録商標及び商標、製品名に対しては、特に注記のない場合でも、これを十分に尊重いたします。

# 1. システムアーキテクト試験の概要

## 1-1 情報処理技術者試験

情報処理技術者試験は、「情報処理の促進に関する法律」に基づく国家試験です。「独立行政法人 情報処理推進機構 IT 人材育成本部 情報処理技術者試験センター」（以下、試験センター）によって実施されています。

情報処理技術者試験の目的は次のとおりです。

- ・情報処理技術者に目標を示し、刺激を与えることによって、その技術の向上に資すること。
- ・情報処理技術者として備えるべき能力についての水準を示すことにより、学校教育、職業教育、企業内教育等における教育の水準の確保に資すること。
- ・情報技術を利用する企業、官庁などが情報処理技術者の採用を行う際に役立つよう客観的な評価の尺度を提供し、これを通じて情報処理技術者の社会的地位の確立を図ること。

IT を利活用する者		情報処理技術者 (ベンダ側/ユーザ側)							情報処理安全確保支援士試験											
ITの安全な利活用を推進する者		高度な 知識・技能	ITストラテジスト試験 (ST)	システムアーキテクト試験 (SA)	プロジェクトマネージャ試験 (PM)	ネットワークスペシャリスト試験 (NW)	データベーススペシャリスト試験 (DB)	エンベデッドシステムスペシャリスト試験 (ES)	ITサービスマネージャ試験 (SM)	システム監査技術者試験 (AU)	安全な情報システムを設計、開発、運用するための 情報セキュリティに関する知識・技能	情報処理安全確保支援士試験 (情報セキュリティスペシャリスト試験) (SC)								
全ての社会人													応用的 知識・技能	応用情報技術者試験 (AP)						
ITの安全な利活用を推進するための基本的知識・技能													基本的 知識・技能	基本情報技術者試験 (FE)						
ITの安全な利活用を推進するための基本的知識・技能		情報セキュリティ試験 (SG)																		
ITの安全な利活用を推進するための基本的知識・技能		ITパスポート試験 (IP)																		

\* 情報処理安全確保支援士試験合格者は、情報処理安全確保事項を登録することにより、情報処理安全確保支援士になることができる。

図表 1 情報処理技術者試験

## 1-2 システムアーキテクト試験の概要

### (1) システムアーキテクト試験の対象者像

システムアーキテクト試験の対象者像は、次のように規定されています。  
業務と役割、期待する技術水準、レベル対応も示されています。

対象者像	<p>高度 IT 人材として確立した専門分野をもち、IT ストラテジストによる提案を受けて、情報システム又は組込みシステムの開発に必要な要件を定義し、それを実現するためのアーキテクトチャを設計し、情報システムについては開発を主導する者</p>
業務と役割	<p>〔情報システム〕</p> <p>情報システム戦略を具体化するための情報システムの構造の設計や、開発に必要な要件の定義、システム方式の設計及び情報システムを開発する業務に従事し、次の役割を主導的に果たすとともに、下位者を指導する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 情報システム戦略を具体化するために、全体最適の観点から、対象とする情報システムの構造を設計する。</li> <li>② 全体システム化計画及び個別システム化構想・計画を具体化するために、対象とする情報システムの開発に必要な要件を分析、整理し、取りまとめる。</li> <li>③ 対象とする情報システムの要件を実現する最適なシステム方式を設計する。</li> <li>④ 要件及び設計されたシステム方式に基づいて、要求された品質を満足するソフトウェアの設計・開発、テスト、運用及び保守についての検討を行い、対象とする情報システムを開発する。 なお、ネットワーク、データベースなどの固有技術については、必要に応じて専門家の支援を受ける。</li> <li>⑤ 対象とする情報システム及びその効果を評価する。</li> </ol> <p>〔組込みシステム〕</p> <p>組込みシステムの要件を調査・分析し、機能仕様を決定し、ハードウェアとソフトウェアの要求仕様を取りまとめる業務に従事し、次の役割を主導的に果たすとともに、下位者を指導する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 組込みシステムの企画・開発計画に基づき、対象とする組込みシステムの機能要件、技術的要件、環境条件、品質要件を調査・分析し、機能仕様を決定する。</li> <li>② 機能仕様を実現するハードウェアとソフトウェアへの機能分担を検討して、最適なシステムアーキテクトチャを設計し、ハードウェアとソフトウェアの要求仕様を取りまとめる。</li> <li>③ 汎用的なモジュールの導入の妥当性や開発されたソフトウェア資産の再利用の可能性について方針を策定する。</li> </ol>

### 3. 平成 29 年度秋期の試験に向けて

平成 28 年度秋期のシステムアーキテクト試験を分析し、平成 29 年度秋期の試験に向けての対策を考えていきましょう。

#### 3-1 平成 28 年度秋期試験について

全体講評としては、昨年よりも難易度は下がったと判断します。午前Ⅱ多肢選択式問題では、例年に増して専門性の高い用語の意味を問う問題が出題されていることを根拠に、難易度は上がったと判断します。午後Ⅰ記述式問題では、問題文のページ数は例年どおり 24 ページで変わりません。問 1 の難易度が高いですが、問 2、問 3 の難易度が下がり問 4 は例年どおりのため、選択する問題に依存しますが午後Ⅰとしては難易度は下がったと判断します。午後Ⅱ論述式問題については、例年どおり、問題の趣旨がていねいに書かれている点を根拠に、難易度としては例年どおりと判断します。全体として、午前Ⅱの難易度は上がり、午後Ⅰは下がり、午後Ⅱは例年どおりです。重み付けをした結果、全体の難易度は下がったと判断しました。なお、午前Ⅱ多肢選択式試験の難易度が上がったので、足切りレベルは高くなった点に留意する必要があります。

過去からの傾向も合わせた、システムアーキテクト試験の今年の応募者数は次のとおりです。去年の受験者数と合格率について確認すると、去年は合格率が下がった点が特記すべき点として挙げることができます。去年の合格率が低かった点、及び、試験の難易度が下がった点を踏まえると、今年は 14% 台に戻すと予測できます。

年 度	応募者数	受験者数	合格者数
平成 26 年度	8,814	5,735 (65.1%)	860 (15.0%)
平成 27 年度	8,181	5,274 (64.5%)	697 (13.2%)
平成 28 年度	8,157	5,363 (65.7%)	748 (13.9%)

( ) 内は、それぞれ受験率、合格率を示す。

図表 11 応募者数・受験者数・合格者数の推移

## (1) 午前 I 試験

共通知識として幅広い出題範囲の全分野から 30 問が出題される試験です。出題分野の内訳はテクノロジー分野が 17 問、マネジメント分野が 5 問、ストラテジ分野が 8 問で、ここ数回同じ出題数です。また、出題された問題は、従来どおり全て同時期に実施された応用情報技術者試験 80 問から選択された問題になっています。

平成 26 年秋期試験から重点的に出題されているセキュリティ分野の問題は今回もこれまでと同じ 4 問で、出題数が定着したといえます。

今回の試験で新傾向問題といえるものは次の 2 問でしたが、問 9 の問題はやや難の内容です。

問 9 B<sup>+</sup>木インデックスのアクセス回数のオーダ

問 18 PMBOK の統合変更管理プロセス

問題の出題形式としては、文章の正誤問題が 15 問（前回 19 問）、用語問題が 4 問（前回 5 問）、計算問題が 5 問（前回 2 問）、考察問題が 6 問（前回 4 問）で、前回と比べて文章の正誤問題が減り、計算問題と考察問題が増えています。出題内容としては、基礎理論の問題が基本情報技術者試験レベルでこれまでの問題と比べて少し易しかったといえますが、アルゴリズムの問題が突然現れて、驚いた方も多かったと思われる。全体としては、計算問題と考察問題が増えた分、少し難しく感じられた試験だったといえます。

高度情報処理技術者の午前 I 試験は出題範囲が広い中からの 30 問なので、対策としては日ごろから、基本情報技術者から応用情報技術者試験レベルの問題を少しずつ解いて基礎知識を維持することが大切です。

次に、新傾向問題を含む出題内容全体を示します。定番問題もありますが、下線を引いた問題は高度午前 I 試験ではあまり出題されていない内容です。あまり聞かない用語や、解答に少し時間がかかる問題といえますが、基礎知識を確実に理解していれば、用語問題は消去法で、計算問題は少し時間をかけて丁寧に考えることで、解答できる問題です。

- ・テクノロジー分野……近似値を求めるアルゴリズム、有限オートマトン、ヒープソート、メモリインタリーブ、アベイラビリティの変化、主記憶管理、論理回路、SMIL、B<sup>+</sup>木インデックスのアクセス回数、DBMS の再立上げ、ARP、IPv6 の拡張ヘッダ、チャレンジレスポンス認証、認証デバイス、ハ

## ●平成 28 年度秋期

## 午前Ⅱ問題 解答・解説

## 問 1 ウ

JIS X 0160 システム要求事項分析プロセスの成果 (H28 秋・SA 午前Ⅱ問 1)

JIS X 0160 はソフトウェアライフサイクルプロセスに関する JIS 規格である。その中で、システム要求事項分析プロセスは、「定義された利害関係者要求事項を、システムの設計を導くことになる望まれるシステムの技術的要求事項の集合へ変換することを目的とする」とされ、その成果として、「システム要求事項は、全ての当事者に伝えられ、ベースラインとなっている」状態になることが規定されている。したがって、(ウ) が正解である。

ア：システム方式設計プロセスの成果である。

イ：システム結合プロセスの成果である。

エ：システム適格性確認テストプロセスの成果である。

## 問 2 エ

共通フレームにおけるシステム方式設計プロセスでの文書化 (H28 秋・SA 午前Ⅱ問 2)

共通フレームは、ソフトウェアライフサイクルプロセスの国際規格 ISO/IEC 12207 (JIS X 0160) に準拠しており、日本独自の修正を加えている。最新版は共通フレーム 2013 である。共通フレームのシステム方式設計プロセスでは、「システム方式及び品目に割り当てたシステム要件を文書化する」とある。したがって、(エ) が正解である。

ア：ソフトウェア導入プロセスの成果である。

イ：システム結合プロセスの成果である。

ウ：システム要件定義プロセスの成果である。

## 問 3 エ

DFD の図形要素 (H28 秋・SA 午前Ⅱ問 3)

DFD (データフローダイアグラム) は、構造化分析/設計の中心となる図式表現であり、次のような図形要素を用いる。

- ①源泉 (ソース) と吸収 (シンク) ……長方形 (設計対象としているシステム外にあり、データを発生させ、また受け取るもの)
- ②データフロー……矢印 (データの流れを表す)
- ③データストア (蓄積) ……上下 2 本線 (データの一時的な蓄積を示す。“ファイル” と呼ぶ場合も多い)
- ④プロセス……円 (入力データを出力データに変換するもので、この円形を“バ



ブル”とも呼ぶ。“機能”，“処理”，“変換”と呼ぶ場合も多い）したがって、これらを列記している（エ）が正解である。

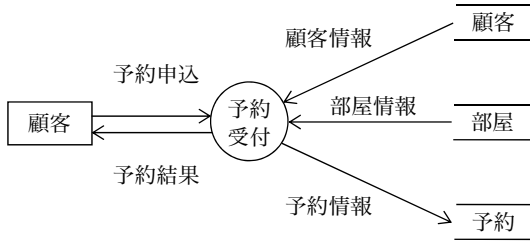


図 DFD の例（簡略化した宿泊予約業務）

ア～ウ：関連（リレーションシップ）と実体（エンティティ）は E-R 図の図形要素であり、DFD と E-R 図の図形要素が混在しているので、誤りである。

#### 問4 ウ

ソフトウェアの要求モデル（H28 秋・SA 午前II問4）

並列に動作する事象間の同期を表現できるソフトウェアの要求モデルは（ウ）のペトリネットモデルである。ペトリネットモデルは制御系の要求分析に適しており、その構造は2種類の節点をもつ有向2部グラフで表される。

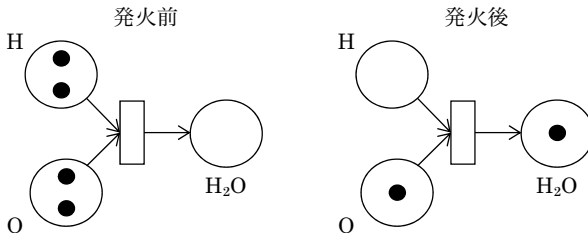


図 ペトリネットモデルの簡単な例  
（H 原子と O 原子が化学反応して H<sub>2</sub>O になることを表現）

- ア：E-R モデル……対象となる世界を実体（エンティティ；Entity）と関連（リレーションシップ；Relationship）で表現したデータモデルである。
- イ：データフローモデル……データの流りに着目したモデルで、データによる事象の関連性が分かりやすい特徴がある。
- エ：有限状態機械モデル……あるシステム（機械）が取り得る有限の状態を、どのように遷移するか表現したモデルで、制御系システムの設計に適用される。

## ●平成 28 年度秋期

## 午後 I 問題 解答・解説

## 問 1 仕入れ納品システムの変更

(H28 秋-SA 午後 I 問 1)

## 【解答例】

- [設問 1] (1) 不定貫商品の価格を確定させる必要があるから  
 (2) 定貫商品か不定貫商品かを表す区分  
 (3) 属性名：①原単価 ②売単価  
 意味：100 グラム当たりの金額を表す。
- [設問 2] (1) 実際に納品された商品の価格が、納品伝票に記載された価格と不一致となる。  
 (2) 値札に印字された店舗名を見てピックアップする。
- [設問 3] (1) 商品ごとに原価、売価が異なり、数量だけでは算出できないから  
 (2) 空欄 a：実納品原価 空欄 b：実納品売価 (a と b は順不同)  
 空欄 c：納品明細  
 空欄 d：原価 空欄 e：売価 (d と e は順不同)

## 【解説】

仕入れ納品システムの変更を題材にして、主に、システムにおける不定貫商品の扱いについて問う問題である。不定貫商品は、100 グラム当たりの単価は決まっているが、個包装ごとに内容量が若干異なるために、販売価格などが異なる商品である。不定貫商品では、同じ精肉であっても、大パックは 300 グラム、小パックは 100 グラムという目安の重量を設け、商品マスタに、大パックと小パックを別々の商品として登録する。ここで重要な点は、次の 4 点である。

## ①商品マスタの内容は取引先と共有している点

取引先において、不定貫商品の内容量が分かれば、例えば、売単価から販売価格を導くことができる。

## ②不定貫商品は、商品の包装ごとに内容量が異なる点

100 グラムの精肉パックの内容量は、100 グラムとは限らない。そのため取引先では、計量値付機で計量して、包装ごとに計測した内容量から売価などを計算している。

## ③問題文の表 1 にある納品明細ファイルにある数量という属性は、不定貫商品の場合もグラム数ではないという点

不定貫商品の場合、数量から売価や原価を求めることができない。この数量は、例えば、100 グラムの精肉パックの数量を示している。

#### ④内容量とグラム数の使い分け

解説では、ある個包装内の精肉の量を「内容量」と表現する。表1にある納品明細ファイルの原価、売価を、商品マスタの原単価、売単価から算出するときの精肉の量を「グラム数」と表現する。

以上の点を踏まえて、次のように考えて解答を導く。

#### [設問1]

- (1) 不定貫商品について、B社から納品伝票データ及び納品明細データを送信してもらうように変更した理由について問われている。

最初に、表1の納品伝票と納品明細について確認する。納品明細は、店番ごと伝票番号ごとに行番号ごとに数量などを集計している。ここで、[現在の業務及びシステムの概要] (2)の「商品コード単位に行番号を付与した明細行」という記述から、行番号ごととは、商品コードごとと考えることができるので、納品明細は、店番ごと、伝票番号ごと、商品コードごとに原価や売価などを集計していることになる。同様に、納品伝票は、店番ごと、伝票番号ごとに原価合計や売価合計などを集計していることが分かる。

次に、[現在の業務及びシステムの概要]の最初の段落にある「取引先での処理に必要なマスタ情報は、A社から取引先に送信され、共有されている」という記述から、取引先には、表1の商品マスタが送信されていて、商品コードごとの原単価、売単価が共有されていることが分かる。

加えて、[変更の概要]の最初の段落にある「これまでA社で扱ってきた商品は、商品ごとに原単価、売単価が一律に決まる商品（以下、定貫商品という）だけであった。しかし、新たに扱う精肉については、100グラム当たりの単価は決まっているが、個包装ごとに内容量及び販売価格が異なる商品（以下、不定貫商品という）になる」という記述から、不定貫商品では、内容量が決まらなないと、販売価格が決まらなことが分かる。なぜならば、売単価に内容量を掛けてパッケージごとの販売価格を求めるからである。

以上の前提を踏まえて、次のように考えて解答を導く。

不定貫商品と定貫商品との違いは、B社において計量値付機を使っている点である。[変更の概要]の箇条書きの三つ目に「B社では、納品明細データを基に、後述する計量値付機を使って、包装、計量、値札発行、値札貼付を行い、納品伝票データ及び納品明細データを更新する」と記述されている。この記述から、計量値付機で計量した結果を集計して、納品明細データの原価と売価、納品伝票データの原価合計と売価合計を更新していると考えることができる。このように考えた根拠は次のとおりである。

例えば、納品明細データの原価は、店番ごと、伝票番号ごと、商品コードごとのグラム数が決まらなと求めることができない。このグラム数は、計量値付機で計量する。商品コードごとの原単価、売単価が共有されているので、グラム数と原単価の積から原価を求めることができる。

# ●平成 28 年度秋期

## 午後Ⅱ問題 解答・解説

### 問 1 業務要件の優先順位付けについて

(H28 秋・SA 午後Ⅱ問 1)

#### 【解説】

要件定義における業務要件の優先順位付けに関する出題である。論点となる開発局面が要件定義である点に留意して、要件定義の後工程である、システム方式設計などを論点としないこと、「機能」という言葉を使わず、「要件」という言葉で終始する必要がある。

設問イでは、業務要件を評価する手順、評価項目の設定と重み付け、について問われている。この部分に関係する問題文の趣旨を確認すると、「業務の特性や情報システムの開発の目的などを踏まえて」と記述されている。したがって、設問アにおいて「業務の特性」や「開発の目的」を論じる際には、設問イにおいて「～という業務の特性を踏まえて」などと展開することを前提に、簡潔に引用しやすく表現する必要がある。

設問文に沿って章立てをすると、次の例を挙げることができる。

- 第 1 章 情報システムの概要（設問ア）
  - 1.1 情報システムの開発の目的
  - 1.2 対象業務の概要
- 第 2 章 業務要件の評価手順及び評価項目と重み付け（設問イ）
  - 2.1 業務要件の評価手順
  - 2.2 設定した評価項目と重み付け
- 第 3 章 業務要件及び評価手順と優先順位（設問ウ）
  - 3.1 業務要件
  - 3.2 評価手順と業務要件の優先順位

以上の章立てを基に、論述のポイントと論述例を次に示す。

#### [設問ア]

- 第 1 章 情報システムの概要
  - 1.1 情報システムの開発の目的
- [論述のポイント]

情報システムの開発の目的を、例えば、システム開発の背景などから展開して論じる。設問イにおいて、「～というシステムの開発の目的を踏まえて」と論じることができるよう、簡潔にまとめるようにする。さらに、読み手に開発の目的が分かるよう

に、「開発の目的」という言葉を使って明示することが重要である。ただし、「以上が開発の目的である」という表現は、何が開発の目的かを、第三者が読み取れない場合があるので注意する。

### ◆論述例

#### 第1章 情報システムの概要

##### 1.1 情報システムの開発の目的

A社は、産業用機械メーカーである。全国にあるグループの販売代理店数社を通じて、法人顧客に対して、A社製品の販売・保守を行っている。A社グループでは、製品に関する顧客からの不具合の連絡、クレームなどを含む問合せ（以下、問合せという）をグループ全体で一元的に管理する問合せ管理システムの導入を行うことになった。

現在、問合せはA社グループ内で共有できておらず、①過去の対応内容を類似の問合せへの対応に生かすことができていない、②問合せが急増している製品を早期に把握して改善を図ることができていない、などの問題があった。それらを受け、開発の目的として、顧客サービスの向上と製品の品質改善、が設定された。

##### 1.2 対象業務の概要

〔論述のポイント〕

ここでは対象業務の概要を述べるが、設問イにおいて、問題文の趣旨から業務の特性を踏まえて論旨展開することが求められているので、「業務の特性」という言葉を使って、それを明示することが重要である。節の最後に、自分の立場を述べて、次の節につなげるようにする。

### ◆論述例

#### 1.2 対象業務の概要

顧客の担当者は、A社製品に問題が発生した場合は、代理店へ電話連絡を行う。電話連絡を受けた代理店の担当者は、顧客から問合せ内容を詳細に聞き取る。即座に解決できる問合せは、その場で解決する。解決できない場合は、A社の製品部門に連絡をして、対応策を決定する。代理店の担当者は、決定した対応策を顧客の担当者に連絡する。

なお、安全性に関わる重大な問題の場合は、代理店側で品質問題報告書を作成して、顧客の担当者から聞取りが終了した日に、A社製品部門に報告している。したがって、対象業務の特性としては、安全性に関わる問題が発生した場合は迅速に対応する、及び、ステークホルダが多いという点を挙げることができる。

私はA社情報システム部のシステムアーキテクトの立場で、業務要件の膨張に留意して、問合せシステムの要件定義を次のように実施した。

・システムアーキテクト 午前Ⅱ試験の出題範囲順  
(平成 26 年度秋期～平成 28 年度秋期)

期	問	問題タイトル	正解	分野	大	中	小	難易度
H27	18	SVC 割込みが発生する要因	エ	T	2	3	1	2
H26	19	キャッシュメモリのヒット率	ウ	T	2	3	2	2
H28	18	RAID1～5 の方式の違い	エ	T	2	3	5	3
H26	20	Web ブラウザや HTTP を用いないネットワーク対戦型ゲームの仕組み	ウ	T	2	4	1	3
H28	19	分散処理システムにおける障害透明性	エ	T	2	4	1	3
H27	19	フォールトトレランスの説明	ウ	T	2	4	2	2
H27	20	アムダールの法則で説明できる性能向上比	ウ	T	2	4	2	4
H28	20	非修理系の故障率	ア	T	2	4	2	3
H26	21	階層構造をもつ UML のクラス図	エ	T	3	9	2	4
H26	22	DBMS の媒体障害時の回復法	エ	T	3	9	4	2
H28	21	コミット処理完了とみなすタイミング	エ	T	3	9	4	3
H27	21	OLAP の分析軸を切り替える操作	ア	T	3	9	5	3
H27	22	CSMA 方式の LAN 制御	ア	T	3	10	2	2
H26	23	企業内 PBX 内線網の接続構成	ア	T	3	10	5	2
H28	22	専用ネットワークで構成する外部記憶装置	エ	T	3	10	5	3
H27	23	ファイル送受信時の情報漏えい対策	エ	T	3	11	1	3
H27	24	失効になったデジタル証明書のデータ	エ	T	3	11	1	3
H28	24	Web アプリケーションへの攻撃と対策	ア	T	3	11	1	3
H28	25	WPA2 で利用される暗号化アルゴリズム	ア	T	3	11	1	3
H28	23	JIS Q 27014:2015 のガバナンスプロセス	イ	T	3	11	2	4
H27	25	WAF の説明	ア	T	3	11	4	2
H26	24	WAF に登録された検出パターンと判定の関係	ウ	T	3	11	5	3
H26	25	脆弱性検査手法のファジング	イ	T	3	11	5	4
H28	1	JIS X 0160 システム要求事項分析プロセスの成果	ウ	T	4	12	1	3
H27	1	ソフトウェアライフサイクルプロセスのシステム方式設計	ア	T	4	12	2	3